

しゃきょう

令和3年11月1日発行 第447号

発行 八丈町社会福祉協議会
八丈町三根2番地
TEL 04996-2-2609
FAX 04996-2-4655
心配ごと相談 TEL2-5000
Eメール info@8jo-syakyo.or.jp
HP <http://8jo-syakyo.or.jp/>



社協では令和2年度～6年度に掛けて、第3次みつわ計画に基づき事業を行ってまいります。

あいさつ運動にご協力ありがとうございました！



社協では、毎年10月に「あいさつ運動」を実施しています。期間中には島内の多くの事業所等のご協力により、のぼりを設置していただきました。10月のあいさつ運動期間中は、各学校へ2回ずつお邪魔しています。今回も各学校の児童・生徒や先生方が参加してくれました。挨拶を通じて、住民同士の支え合いが益々広がると嬉しいです。

今年度も「福祉バザー」は新型コロナウイルス感染症感染予防のため中止致します。



今月のもくじ

2面:新人職員紹介他

3面:依存症のこと他

4面:ボランティア

新人職員紹介

10月から職員として働かせていただくことになりました小林磨世と申します。私は八丈島生まれではありませんが、小学校から高校を卒業するまで八丈島に住んでいました。

将来は八丈島の福祉に貢献したいとの思いで保育福祉の専門学校へ進学し、保育士・幼稚園教諭二種・介護福祉士の資格を取得しました。これらの資格を取得しましたが、児童福祉と高齢者福祉のどちらの分野に進むべきか当時学生の私は悩んでいました。当時は高齢社会（65歳以上の人口の割合が全人口の14%を占める状態）と言われ、まもなく超高齢社会（65歳以上の人口の割合が21%以上の状態）に突入すると社会問題になっていました。また、介護士の働き手不足も取り沙汰されていました。また、介護士の働き手不足も取り沙汰されていました。超高齢社会に突入すると言われ、今後介護を必要とする方が増える事は明白でさらに働き手不足が予想される、この介護士不足も大きな問題となっていました。

この問題を学校やニュースで学び知るうちに、高齢の方の役に立ちたい、高齢の方と一緒に笑い、高齢者福祉に貢献したいと考えるようになり、専門学校を卒業後、特別養護老人ホームや訪問介護のヘルパー、サービスマス提供責任者として高齢者福祉の仕事に多少なり携わらせていただきました。汚い話ですが認知症のご利用者様に排便を投げつけられたり、ご立腹されているご利用者様に

殴られたりと大変なことは多々ありました。ただ、ご利用者様やご家族様から直接笑顔で「ありがとう」と言われることが私にとつての大きなやりがいになっていたと感じております。

また、昨年は介護支援専門員、いわゆるケアマネージャーと呼ばれる資格に挑戦しましたが、あえなく不合格でした。未熟ではあります。現場をある程度経験してきたので、福祉関係の法律、介護保険や介護支援・医療などの知識をつけ、直接的なケアだけではなく様々な側面からご利用者様・ご家族様にアプローチをしてまた別の角度から福祉に関わっていきたいと思いつきました。今後自身も知識を増やす為に、ケアマネージャーの勉強は続けていきたいと思います。

社会福祉協議会でこれらの経験などを活かし、八丈島の高齢者福祉の活性化の為に、高齢者や地域の皆様の笑顔を増やす為に微力ながら貢献していきたいと思います。



1988年12月9日
いて座・B型
神奈川県藤沢市生まれ
趣味 スポーツ
何卒、よろしく
お願い致します。

11月サロン日程

11月のサロンは左記の日程で行いますので、ぜひご参加ください。

また、ご参加の際には体調確認と検温マスク着用をお願い致します。

・坂下地域 11月18日(木)

10時～11時30分

大賀郷公民館

・坂上地域

11月19日(金)

10時～11時30分

中之郷公民館

お家でサロンクイズ

今月のクイズはサロンで出題した「いじわる」クイズです。
答えは3面をご覧ください。

第1問

日本列島で一番北にある県はどこでしょう？

第2問

あなたはマラソン大会に参加しています。
あなたは今、3位の人を抜きました。
今、あなたは何位でしょう？

第3問

幼稚園、大人、小学生、中学生、一番大きいのはどれでしょう？

快楽を求める？苦痛から逃げる？

先日、「人はなぜ依存症になる人とならない人がいるのか」という内容の記事を読んでいたら興味深い実験のお話が載っていたので、今回は皆さんにご紹介したいと思います。

以下の文書には動物実験に関して書いています。動物愛護の観点から、実験を不快に感じる方がいるかもしれません。動物実験が苦手な方はご注意ください。

この実験はカナダ人のブルース・K・アレクサンダー教授が行った「ラットパーク実験」と言うものです。

まず約30匹の雄雌のネズミを異なる二つの住環境のグループに振り分けてその様子を観察します。一つは狭いゲージに1匹ずつ入れられたグループ。もう一つは通常のゲージの200倍の広さの中に十分な食料とホイールやボールなど遊び場所がある「ラットパーク」に、雄雌のネズミが共存するグループ。

そして、それぞれのグループに対して、普通の水とモルヒネ入りの水を用意します。なお、モルヒネ入りの水は苦いので砂糖を混ぜて甘くしてあります。

実験の結果、狭いゲージのグループは砂糖が少なくてもモルヒネ入りの水を好んで飲むようになり、反対にラットパークのネズミはどんなに砂糖を入れてもモルヒネ水を嫌がっ

て飲まなかった、ということでした。

そして、さらに興味深いのは、狭いゲージに入れられモルヒネに依存性を示すようになったネズミも、ラットパークに移すと軽い離脱症状を見せたが、後に他のネズミとじゃれ合い交流するようになり、そして他のネズミを真似して普通の水を飲むようになったと言う事です。

実験の結果を受けて、アレクサンダー教授は「薬物依存は快楽の為に薬物に依存しているのではなく、孤独などの周囲の環境からくるストレスを軽減するために依存する。」という主張をしました。



後日、他の研究者よりこの実験に反論もあるようで、この主張が全て正しいかどうかは分かりません。しかし、感覚的には共感出来る部分は多くあるのではないのでしょうか。

他者との交流がストレス解消になる

このように、依存症は「意思が弱い」とか「快楽を求めてなるもの」と思われているかもしれませんが、実は苦痛を軽減する為の行為が依存症に繋がる可能性があるのです。

この実験は薬物依存に関するものですが、薬物に限らず、私たちは生活する上でストレスが掛った時にお酒・たばこ・食べ物・ゲーム・運動など人によって様々な形でそのストレスを解消しています。

この実験のように「他者との交流」がストレス解消法の一つとなり得るといえる考えは、とても興味深いと感じました。

社協では地域住民の繋がりを推進する為に地域声掛け事業を行っていますが、皆さんの中には「周りの人と関わらず一人が気楽で良い」と言う方もいると思います。

また、社協では10月にあいさつ運動を行いました。ある友人から「挨拶しない権利もあるだろう」との意見がありました。

もちろん、挨拶や住民同士の交流は強制されて行うものではありませんし、様々な考え方や感じ方があるので、そうした価値観も大切だと思えます。

他者との関わりは時にはストレスになることもありますが、地域住民同士の交流が一人でも多くの方に良い効果があることを願いながら、これからも地域声かけ事業を行っていきたいと思います。
(菊池孔介)

参考文献

- 「月刊福祉2021年10月号」
- 【依存症は『孤立の病気』】松本俊彦「フリー百科事典ウィキペディア」



☆2面のクイズの答え☆

- ① 青森県 県はどこかなので、青森県です。
- ② 3位 3位を抜いたので3位です。
- ③ 幼稚園 幼稚園は建物なので1番大きいのは幼稚園です。



ボランティアコーナーだより



富士中学校2学年を対象に行った「スクール出前」とちよんこめ作業所の支援職員を対象に行った「福祉教育」の内容を報告します。

スクール出前報告（富士中学校2学年）

9月8日（水）、9月10日（金）に総合学習「福祉教育」の授業で「福祉について知る・高齢者疑似体験」を行いました。

9月8日（水）は、福祉・八丈の現状・心のバリアフリーについて等生徒の皆さんに考えてもらい、「福祉について知る」について話をしました。

9月10日（金）の「高齢者疑似体験」では、生徒は2・3人1組となり、体験者と介助者・観察者の役割を交替しながら行動しました。体験者は、80歳位の方を想定した心身の変化を疑似的に体験する用具を装着して指示書に従い、階段の昇り降り、紐を介助者の手首に結ぶ、財布から小銭を出す等の内容を行いました。

この授業内容により、福祉について理解を深め、高齢者の方の体と気持ちを理解し、これからの学習や生活に役立ててもらえればと思います。（佐々木攻）



「福祉について知る」授業の様子



用具を装着して高齢者の方の心身の変化を体験

福祉教育報告（ちよんこめ作業所支援職員）

10月6日（水）に「アイマスク体験・車いす体験」を実施しました。

「アイマスク体験」では、視覚障がい者の介助の仕方のポイントを学ぶ目的で行い、作業所内で体験者はアイマスクを装着して目の見えない状態で歩行しました。

八丈町保健福祉センター（以下「保健センター」という）待合室に場所を移動して、ニコニコホームヘルプサービスで同行援護を実践している有資格者のヘルパーが視覚障がい者の介助の方法について説明をしました。

次に『点字ブロック上の歩行・階段の昇り降り』を体験しました。体験者はアイマスクを装着した状態で白杖を使い歩行し、介助者がこの体験者を介助し、役割を交換して行いました。

「車いす体験」は車いすの使い方・メンテナンスのポイントについて学ぶことを目的で行い、車いすの名称・メンテナンスのポイントについて説明し、その後、作業所玄関付近から保健センター玄関前の左右のスロープ、舗装されていない駐車場を自走しました。続いて、舗装されていない駐車場で介助方法を説明し、介助での走行を体験しました。

今回の体験を通して、支援職員の皆様の仕事に役立てていただけると幸いです。（佐々木攻）



白杖を使い点字ブロック上の歩行



アイマスクを装着し階段の昇り降り



舗装されていない駐車場で介助走行